

東京駅、ついに復原。



丸の内「赤レンガ駅舎」が、1914年創建時の姿へ。鹿島建設が共同企業体で進める「東京駅丸の内駅舎保存・復原工事」が、2012年10月、完成します。戦災で失われた南北ドームなどが復活し、ドーム内部も創建時の美しい造形を取り戻しています。銅板・スレート瓦など装飾物の復原には、全国各地から職人が集結。互いの技術と情報を交換しながら、創建時の写真など少ない資料をもとに工事にあたりました。建物だけでなく、過去の大変な伝統技術を未来につなぐことも、この計画の重要な意義なのです。

地上の復原工事と並行して行われたのは、地下での免震化工事です。全長約335m、総重量約7万トンもの駅舎をいっと鉄骨支柱で仮受けし、これまで建物を

支えていた1万本以上の松杭を撤去。新しい地下躯体を構築し、352基の免震装置に建物の荷重を移動しました。巨大ターミナル駅としての機能を維持しながら、行き交う人々の足下で、過去に例を見ない大工事が進められていたのです。総工事期間約5年、延べ78万人もの関係者が24時間体制で携わった、日本建築史上最大級の保存・復原工事。終電から始発の限られた時間にも休まずに工事は行われていました。創建当時への復原と、駅舎全体の免震化という世紀の大プロジェクトは、ひとりひとりの地道な作業の積み重ねにより完結します。携わったすべての人々の知恵と努力と熱い想いが、100年前の記憶を蘇らせ、次の100年へとつないでゆきます。



1914年創建時の姿に復原される東京駅丸の内駅舎・完成予想図

100年をつくる会社
 鹿島